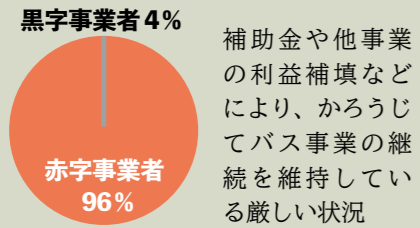
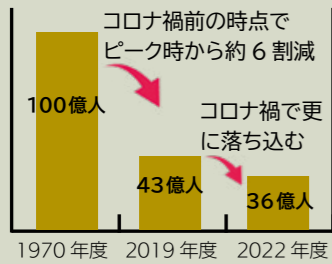


路線バスの現状

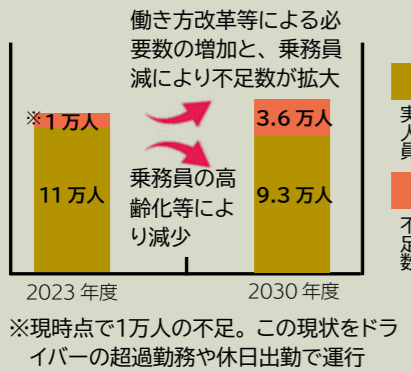
1 全国の路線バス事業者の多くが赤字経営



2 路線バスの利用者数はピーク時に比べて約6割減少



3 全国のバス事業者の8割以上が乗務員不足で、今後も悪化



4 こんなときは、バスを利用してみませんか？

公共交通を守るために私たちができる第一歩は、公共交通の現状と課題を認識すること、そして1回でも多く公共交通を利用することです。長距離移動の際には、空港バスや鹿児島中央駅直行バスなどを利用したり、市街地へ出かける際は「バス」を利用したりするなど、公共交通を利用しましょう。

5 市の公共交通に関する情報はホームページをご覧ください

市ホームページには、路線バスやくるりんバスの路線図、時刻表などのほか、時刻表検索サイトなども掲載していますので、ご利用ください。



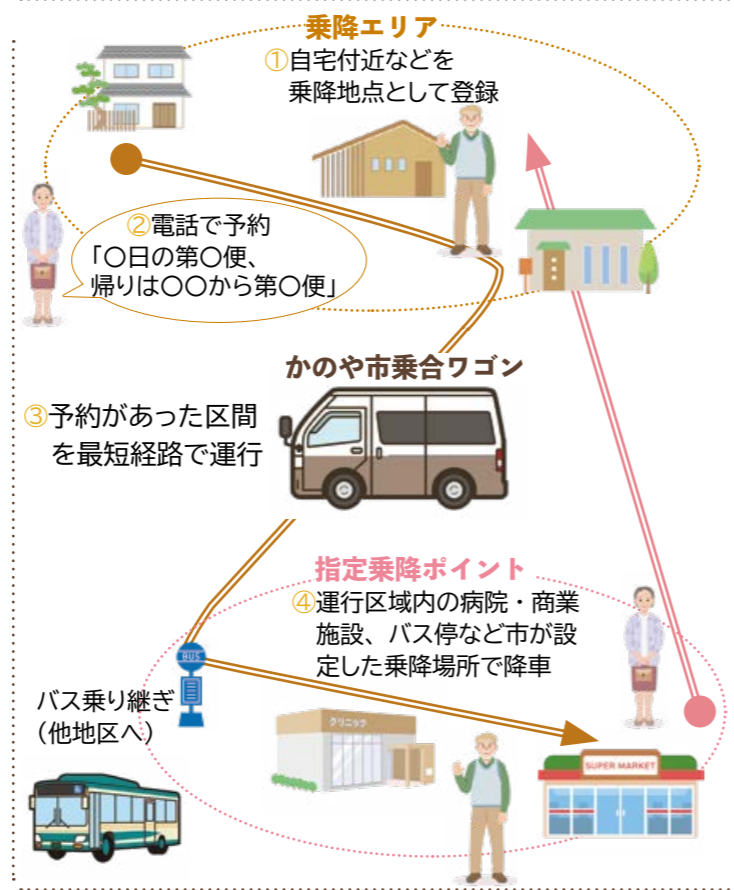
▲市公共交通ホームページ

- 運行日 11月～金曜日（祝日・年末年始を除く）
- 運行回数 11計7便
- 料金 11利用区間により2000～5000円

Point

花岡・上野地区で「乗合ワゴン」実証運行スタート

乗合ワゴン（区域運行型デマンド交通）イメージ図



Point

12月から吾平・川東地区でも運行開始を予定

- 運行日 11火・木・土曜日（祝日・年末年始を除く）
- 運行回数 11計8便
- 料金 11利用区間により2000～5000円



地域交通を見つめ直す

これまで交通機関は、社会の変化に伴って大きな転換を繰り返してきました。第一の転換期は、明治・大正期の「舟運」から「鉄道」への転換。第二の転換期は昭和後期のモータリゼーションの進展で、全国のローカル鉄道や路面電車などが廃止に追い込まれました。新たな転換期を迎える今、本市では持続可能な地域交通体系を目指し、段階的に見直しを進めます。

市地域活力推進課 ☎ 0994-31-1147

「第三の転換期」を迎える「地域交通」

鉄道の無い本市においては、路線バスが唯一の公共交通機関となっています。周辺市町を含む少子化・人口減少の進行に伴い、路線バスの利用者数は大きく落ち込んでいます。加えてコロナ禍が利用者数の減少に拍車をかけ、本市関係の路線バスの利用者数は4割も減少するなど厳しい状況にあります。

加えて、バス・タクシー事業者の乗務員不足が全国的な問題となっており、これは本県・本市においても例外ではありません。利用者数の減少だけでなく、乗務員不足により地域交通を維持できなくなるという新たな局面を迎えており、地域交通は今まさに大きな「転換期」にあると言えます。

「地域交通を見つめ直す」契機に

これまで事業者の企業努力や自治体の補助などによって維持してきた路線バスも、全てを維持していくことは困難になっています。このような状況を踏まえ、本市では令和4年3月に「鹿屋市地域公

共交通計画」を策定。限られた輸送資源を「広域路線は路線バスで」「それ以外の部分はくるりんバスや乗合ワゴンなどで」といった形で最適に役割分担・再構築することにより、「持続可能な交通ネットワークの実現」を目指す取り組みを進めています。

今年度は、10月から花岡・上野地区、12月から吾平・川東地区において「かのや市乗合ワゴン」（区域運行型デマンド交通）の実証運行を開始するとともに、来年度以降、他地区でも段階的にコミュニティ交通の見直しを進めていくこととしています。

地域交通を「見直す」ことは、市民の皆さんが地域交通を「見つめ直す」契機でもあります。本市に限らず、地方都市の大半で自動車に依存するライフスタイルが確立しています。しかし、地域交通が危機を迎える中、自動車を運転できない子どもたちや、運転免許返納者を含む高齢者などの移動手段を考へることは、「次代の子どもたち」や「自分の将来」を考へることもありません。市民一人ひとりが地域交通を見つめ直し、機会があれば利用してみる、そうした「二歩」を踏み出してみませんか。